

## 目次

- |       |   |    |                     |
|-------|---|----|---------------------|
| P1-P2 | 2023年度企画展 蘇るハンセン病患者とその家族<br>—木村仙太郎の生存記録：長島愛生園 1939-1941— 開催 | P4 | 2022年度 来館者統計        |
| P3    | 重監房資料館はパネルの貸し出しをしています                                       | P4 | お知らせ                |
| P3    | 2023年ウォーキングツアー開催について  | P4 | お客様の声（来館者アンケートより抜粋） |
|       |   | P4 | ご利用案内・アクセス          |

## 2023年度企画展 蘇るハンセン病患者とその家族 —木村仙太郎の生存記録：長島愛生園 1939-1941— 開催

「資料館だより」前号でもお知らせしたように、重監房資料館はこの春に2本の新作ドキュメンタリーを公開しました。2019年の「遺族ふたり」プロジェクトの続編です。前編でも出演者であったハンセン病患者の遺族・木村真三さんの協力を得ています。

新作のうち的一本「仙太郎おじさん！貴方は確かにここにいた」が旧編の増補です。旧編では、1939（昭和14）年9月27日に長島愛生園に収容されて、1941（昭和16）年7月12日に亡くなった仙太郎さんの愛生園での暮らしぶり、死因についての調査が及びませんでした。それには、遺族である木村真三さんが、長島愛生園に保管されている大伯父・仙太郎さんに関する資料の開示請求という困難な手続きが必要だったからです。

その後「大伯父の死が、自死であつたら辛い」という逡巡を振り切り、決断した木村さんは、愛生園に保管されている大伯父の資料の開示請求を行いました。仙太郎さんの「診療録」「解剖録」等を閲覧、複写を入手したのです。さらに勤務先となる獨協医科大学の専門家の協力を得てドイツ語と旧仮名遣いの崩した日本語で書かれた「診療録」「解剖録」の詳細な解読作業を行いました。その成果は木村さんの強い希望を受け止めた長島愛生園の協力によって、長島愛生園歴史館で公開されました。ドキュメンタリー「学芸員レポート2.5」には、木村さんの決意、行動、そして揺れる心情



重監房資料館 2023年 企画展

蘇る  
ハンセン病患者と  
その家族

—木村仙太郎の生存記録：長島愛生園 1939-1941—

Revive

2023年 7.25(TUE) - 12.26(TUE)

開催時間 9:30 - 16:00 (最終入館15:30)  
※11月16日からは開館10:00 - 閉館15:30

観覧料 毎月毎月（平日）の場合は有償（前席、後席）  
※ 品切厚料 入館無料

重監房資料館  
〒114-8511 東京都葛飾区新小岩4-1-1553  
TEL: 02-79-88-1550 FAX: 02-79-88-1552  
<https://n.nidm.jp/sjp/>

会期：2023年7月25日（火）～12月26日（火）  
入館無料

までを収めることができました。

この度、重監房資料館では、長島愛生園歴史館で実現した、遺族によるハンセン病患者の個人資料の公開という画期的なイベントを、遺族・木村真三さんと長島愛生園歴史館の協力を得て、2023年度の当館企画



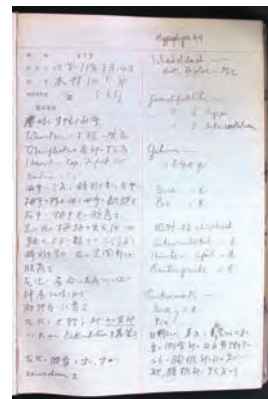
診療録



剖検願



死亡診断書



解剖録

展としてリメイクいたしました。

「診療録」「解剖録」の実物を借用することは現状では叶いませんが、本企画展では、長島愛生園に保管され、遺族・木村真三さんによって開示された「収容簿」「診療録」「解剖承諾書」「剖検願」「死亡診断書」「死亡届」「解剖録」(複写)のパネル展示を行います。企画展副題を「木村仙太郎の生存記録：長島愛生園1939-1941」としたのもそのためです。解読された解剖録についても大伸ばしにして展示します。また家族に「木村家の顔だねえ」と迎えられた仙太郎さんのお姿は「診療録」に添付されていた写真でした。会場では、木村真三さん出演のドキュメンタリー映像も流しております。

今回のパネル展は、全国13園には入所者一人一人に関わる「生きた証」と言ふべき資料が大量に保管されている事実を暗示するでしょう。公開自体が貴重な資料とともに、木村家のファミリーヒストリーも挟み、大伯父・仙太郎さんを家族に取り戻し、その絆を回復した「蘇るハンセン病患者とその家族」という物語を背景に置いています。

ハンセン病患者の遺族・木村真三さんは、「他人事を自分事にできるか」と私たちに問います。自らの放射線衛生学者としての研究歴に重ねて、ハンセン病問題に留まらない人権啓発へ、行動の伴う決意を新たにしています。木村さんに触発されて「MeToo！」と言えるように、私たちの応答可能性を探りませんか。最初の一步踏み出す機会とするために、皆さんのご来館をお待ちしております。

(黒尾和久)

## イベント情報

### 市民・人権フォーラム2023

～ハンセン病患者遺族の「想い」に触れて～

日時：8月11日（祝：金）

13時00～16時30分（開場：12時30分）

場所：東京都東村山市中央公民館

ホール

（入場無料：先着順）

\*会場は東村山市です

主催：ハンセン病問題を知る企画実行委員会・  
重監房資料館

### 内容：

木村真三さん講演会（30分）

「聴いて欲しい、ハンセン病患者の遺族の『想い』を！」

ドキュメンタリー上映（60分）

「仙太郎おじさん！あなたは確かにここにいた  
～蘇るハンセン病患者とその家族～」

シンポジウム（100分）

「偏見と差別に抗う私たちのMeToo運動」

登壇者：

木村真三さん（ハンセン病患者遺族、独協医科大学准教授）

鶴田能史さん（ファッションデザイナー、tenbo代表）

田川誠・深澤慎也さん（画家・アーティスト）

サヘル・ローズさん（俳優・タレント）

司会・進行：黒尾和久（重監房資料館部長）

8月11日以降の新たな情報は当館webサイト等でお知らせします。

## 重監房資料館はパネルの貸し出しをしています

「群馬県ハンセン病パネル展」 群馬県庁 1階県民ホール北側 6月21日～23日

「病室という名の監房～ハンセン病療養所の監禁室～」 笛吹市春日居郷土館・小川正子記念館 6月7日～7月3日

当館は、草津温泉の外れにある国立ハンセン病療養所栗生楽泉園に隣接しています。交通の便はよいとは言えません。時折「行きたいけれど遠い」というお声も聞こえてきます。物理的環境は変えられませんが、資料館や重監房のことを紹介するパネルを制作し、貸し出しを行っています。

群馬県では6月22日の「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」に合わせて「群馬県ハンセン病パネル展」を開催してきました。新型コロナウイルス感染症拡大防止等で、当館が群馬県庁での「群馬県ハンセン病パネル展」に協力するのは4年ぶりのことで、新たなパネルを用意しました。

新作パネルは、当館の近年の企画展を反映し、「特別病室報道と関喜平」や「延べ93名の収監者」のその後について記載して充実を図りました。

県庁という場所柄、通りがかりでの見学者が多かったようでしたが、中には熱心にパネルを読まれ質問される方もいました。来場者アンケートには、県庁でみたことによりハンセン病を身近に感じられたという感想が複数あり、「草津へも行ってみたい」



【群馬県ハンセン病パネル展】  
新しく制作したパネル5枚

という声も見られました。今後も県と連携して開催していく意義を感じました。

また今年は、山梨県笛吹市からもパネル貸し出しの依頼を承りました。現在、笛吹市に含まれる旧春日居町は『小島の春』で著名な長島愛生園の医師・小川正子の故郷で、春日居郷土館・小川正子記念館があります。

記念館で、パネル展「病室という名の監房～ハンセン病療養所の監禁室～」を行うのにあわせて、6月24日には「よみがえる家族の絆～仙太郎おじさんを探して～」と題したDVD上映会・講演会の開催にも協力しました。今後も連携した仕事ができるような関係を続けていきたいと考えています。



【病室という名の監房～ハンセン病療養所の監禁室～】  
小川正子に関する展示室隣の円形の部屋に17枚のパネルを展示

パネルの貸し出しや講演は、会場や期間に合わせて個別に承ります。どうぞお問い合わせください。

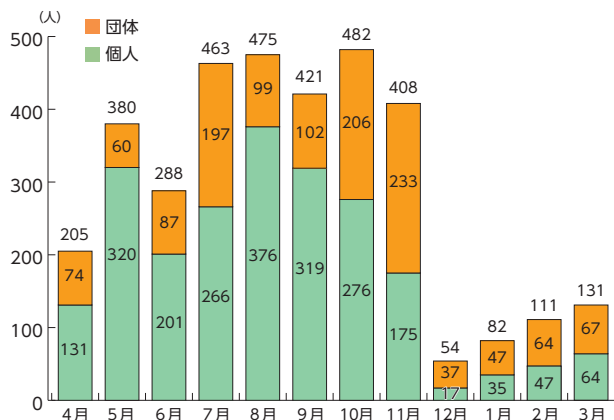
(鎌田麻希)

## 2023年ウォーキングツアー開催について

今年もボランティアガイドの案内で、草津町から重監房資料館までのハンセン病ゆかりの地を徒歩で巡る、ウォーキング・ツアー「初めてのハンセン病史-もうひとつの草津温泉-」を開催します。ハンセン病にまつわる史跡を探访するほか、重監房跡や楽泉園社会交流会館、資料館などを見学します。昨年度までとは異なり、夏の後半から涼しい秋の、8月26日、9月16・30日、10月7日の計4回実施し、各回の催行人数は約10人程度です。申込は電話で先着順、定員に達し次第メ切ります。見学コースや注意事項など詳細が決まり次第、当館ホームページ等でお知らせ致します。(香川進司)



## 2022 年度来館者統計



## 2022 年度入館者数

延べ	3,500 人
1 日平均	11.6 人
開館以来延べ	47,100 人

## ホームページアクセス数

2022 年度	40,001 回
開館以来延べ	406,761 回

## お知らせ

### ■来館者の皆様へ

これまで重監房資料館では新型コロナウイルス感染防止のために、館内見学者数の制限をさせて頂いておりましたが、6/下旬より、見学者数制限を解除致しました。例年通り、11/14(火)までは、個人見学は予約不要、開館時間は9:30～16:00(最終入館15:30)とさせていただきます。ご不明な点は、重監房資料館までお問合せください。

## お客様の声 (来館者アンケートより抜粋)

- ◎現在のコロナウィルスも同様に有効な治療方法がない時は、大きな差別行為があり、これはハンセン病も含め何度でもおこりうる人権問題であることを改めて認識しました。治療行為も受けられず、理由を不明瞭な状態で監房に入房した方のお気持はとて計り知れません。(埼玉県、24歳・男、銀行員)
- ◎この度は二度目の訪問です。昨年、1人で来た後から、障害者の相談員を目指している子に是非とも見て、世の中に存在する様々な障害や差別に苦しむ人々の事を理解し、社会に貢献して欲しいと思っております。在園なさっている皆様が一日でも心穏やかに過ごされますように。  
(栃木県、64歳・女、障害者生活支援員)
- ◎草津といえば温泉、という印象が強かったため、このような施設があったとは驚きでした。また、草津温泉と、名前だけは知っていた「ハンセン病」とのつながりもわかり、勉強になりました。人間が人間を否定する、されることは、病気以上に人間の存在自体をむしばんでゆくこともあるという事実を痛感させられました。(栃木県、44歳・男、調理師)
- ◎今後、調査の成果を展示で発信していただきたいと思えます。「知られてはいけない秘密」など、聞き取りなどの映像を見ることができたのは、心に残りました。もう少し短く編集していただけると良いのですが。(埼玉県、61歳・男、公務員)
- ◎小中学校の社会や歴史の授業で教わらない内容だった。人権問題として教科書に載せてほしい。今の社会では「日本は差別がない(人種やLGBTQなど)」と言う人が多いが、日本でもつい最近まであった(今もある)差別として世の中に知られてほしい。  
(千葉県、28歳・女、会社員)

## ご利用案内・アクセス

- 開館時間 4/26-11/14(フルオープン期間): 9:30～16:00  
11/15-4/25(冬期予約期間): 10:00～15:30 (団体、個人とも完全予約制)
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日
- 入館料 無料
- 交通案内 鉄道・バス利用の場合 JR 吾妻線長野原草津口駅より草津温泉行バス約 25 分  
草津温泉バスターミナル下車 タクシー約 7 分、徒歩約 45 分  
車利用の場合 渋川伊香保 IC より約 2 時間 10 分 上田菅平 IC より約 1 時間 50 分  
(草津方面からお越しの場合は楽泉園の正門を入らず、その先 200m の未舗装路をお入りください。)

### 重監房資料館「くりう」第 23 号【季刊】

発行日: 2023 (令和 5) 年 7 月 25 日 / 企画・編集・発行 重監房資料館 / URL: <https://www.nhdm.jp/sjpm/>  
〒 377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533 TEL: 0279-88-1550 FAX: 0279-88-1553